

第 11 回研究開発システムWG（概要）

中間とりまとめを踏まえて年末のとりまとめに向けて検討すべき論点のうち、

- 資金配分主体の位置付けの明確化
 - イノベーション創出に向けた「場」の構築
- に関する検討を行ったが、その概要は以下の通り。

1. 資金配分主体の位置付けの明確化

- 中間とりまとめでは資金配分主体が研究開発独法であることを前提として議論していたが、とりまとめに当たってはこの点は自由に議論すべき。但し、国立研究開発機関（仮称）の検討も行われており、このワーキンググループでは、資金配分主体が研究開発独法（国立研究開発機関（仮称））に含まれるか別の設置形態とするかというような結論まで得るのは難しい。
- 中間とりまとめで示されている「国から独立した研究主体」の「独立」の意味を再検討する必要がある。研究資金自体は国の資金であり、全く国から独立したということはない。「行政需要と直結」についても、国の資金は行政需要と全く結びついていないということはないので、その基準を示すことが必要。関連して、中間とりまとめに示された行政に直結していない「それ以外の研究開発」については、「競争的研究資金などによる」等の説明を入れた方が分かりやすい。
- 重要な案件や緊急な案件は府省が直接研究開発機関に資金配分する場合もあってよいが、通常は「独立」した資金配分主体による資金配分を行うべき。
- 資金配分主体はイノベーションシステム構築に不可欠な関係機関のひとつ。資金配分主体と国との関係は密であるべきで、資金配分主体のミッションは国が決定するが、資金配分の具体的なオペレーションについては資金配分主体が判断して競争的研究資金を支給するというのではないか。資金配分主体については、その権限と責任を明確にすることが重要。権限の内容を明確にすることにより責任も明確になるので、資金配分主体についてはこのようなガバナンスの仕組みが必要。
- 資金配分主体にもう少し自由度、具体的には専門能力のある人材を活用して研究開発プログラムへの資金配分を行うこと、を与えてはどうか。
- 資金配分主体については、現時点では国の示す方針に従っているだけのように見えるので、専門スタッフを整備して資金配分主体が長期的な提言をできるようにする（国は担当者が比較的短期で異動するので）など、具体的な能力を備えることが重要。
- 現在の独法制度の中で、資金配分主体の専門能力を高める人事やオペレーションを行うことが重要で、大学の研究者や医療の第一線に立っている者が資金配分主体で活躍できるようにPOという職を確立する必要がある、これは制度の問題である。
- 資金配分主体の評価という点では資金配分主体の資金配分を行うための努力やオペレーションを評価することが重要。また、資金を配分した研究開発による課題解決の進捗状況の評価も大事で、今はこの評価が安易である印象。
- PD、POについてはプロパーの育成が重要。現在のPD、POの権限の明確化が

- 不十分。権限を明確にすれば、片手間ではできず専任のPD、POが必要となる。
- 研究現場に直結している大学の研究者が兼職でPD、POを行うことも重要。専任ではその後研究に戻るとしても大学の研究者はPD、POにならないのではないか。
 - 研究フェーズによって専任も兼職もあるのではないか。事業化を目指した研究開発プロジェクトではPD、POは専任が望ましいが、基礎研究から芽が出た領域では大学の研究者が兼務でPD、POを行うことでよいのではないか。このように多様性を確保し、このPD、POの全体像を総合科学技術会議のようなところが把握することが望ましい。
 - 資金配分主体の自立した組織としてのガバナンスには、PDCAサイクルを公開することによるチェック体制の整備が重要。また、ガバナンスについては自己変革能力が不可欠で、資金配分主体自らが改革を提起できる仕組みの整備が重要。

2. イノベーション創出に向けた「場」の構築

- 研究者間のネットワークも研究開発機関間のネットワークも大事。研究者間のネットワークでは、最先端でなくてもよいのでいくつかの研究拠点に人が集まるようにすることや、そのための宿泊施設、旅費等のソフトマネーが重要。研究開発機関間のネットワークでは、拠点を決めネットワーク形成を促進する資金提供が重要。
- 「場」の構築でも資金が必要。例えば民間とのマッチングファンドで「場」を作るための財政的な支援をする仕組みを考えるべきではないか。
- 資金提供の仕方、ネットワーク形成、拠点整備は連携しており、その全体のマネジメントが重要。また、イノベーション創出という観点からは産業界の意見を取り入れることが大事。
- 地域の大学間のネットワークを構築し、地域で大学群を形成することも重要。
- ネットワーク形成を応援するファンディングでは、その方法を類型化することはせず、いいものを伸ばしていく、場を育てていくという方針が重要。
- 具体的な提案はなかなか難しいが、持続的なネットワークを作るためには「儲かる仕組み」が重要で、ビジネスとのネットワーク作りがポイントとなる。
- 研究は発展していく過程でのネットワークが重要で、タンパク質や地震では創造的な活動をしており、良いネットワークを伸ばしていくことが望まれる。
- ネットワーク形成にはリーダーが不可欠。
- 産業クラスター、知的クラスターという取組では地域に閉じていて地域を超えたネットワークになっていない印象がある。
- クラスターの場合、地域外から人材を当該地域へ持ってこれなかったという反省があると思う。ネットワーク形成には制度は必要だが、あまり厳格な制度にせず一度立ち上げてうまくいかない場合にはすぐに見直すような柔軟性が必要。
- ナノテクネットワークの経験からは焦らないことが大事。大型研究施設というインフラを単に施設・設備に使用するだけでなく、その周囲に研究所を設置し、イノベーション創出の場とすることを可能とするため、現在の人中心のファンディングから「場」を中心としたファンディングへ移行するというタクティクスも必要。